

授業紹介～生活支援技術～

6月12日の生活支援技術で、移動用リフトという福祉用具を用いた授業を行いました。

生活支援技術の授業は、利用者の**尊厳、安楽、安全、自立、個々**の持っている機能に合わせた移動・移乗技術を実践できること、介護福祉士としての専門的な**知識、介護技術、姿勢**を実践できること、災害時における介護福祉士の役割を理解し、**自らの行動を考える**ことができること等の到達目標があります。

介護福祉士を目指す専攻科福祉専攻にとってはとても重要な科目のひとつです。



移動用リフトとは

自力での移動が難しい場合に、移乗をサポートしてくれる**福祉用具**です。例えば、ベッドから車イスに全介助で移乗する方であれば、移乗ボードを使って座ったままで横にスライドするよりも使用者の身体をつり上げることで、ベッドから車イスへの移動を**安全に介助**できます。介助者の腰への負担を軽減することができます。

屋内用と屋外用に分けられます。屋外で使用するものとしては、階段を上り下りするための**階段移動用リフト**や、段差がある場所でも車イスに乗ったまま**安全に移動できるリフト**などがあります。屋内で使用するものとしては、床や椅子からのたち座りをサポートしてくれる**立ち上がり補助椅子**や、浴室や浴槽への出入りをサポートしてくれる**入浴用リフト**などがあります。



今回は、ベッドから車イスまでの移乗を移動用リフトで行いました。基本は、1人ですべて行います。今回は、授業のため利用者役、介護者役3人で行いました。介護者は**ベッドの高さを変える、リフトを移動する、車イスを支える**の役割があります。7人でローテーションしながら4つの役割を勉強しました。

リフトを移動することがとても難しかったです。少しの揺れでも乗っている利用者にとっては、大きな揺れにつながるとわかりました。そのためリフトを慎重に動かさなければならぬけど、利用者さまのことを考えると早く車イスに移乗しなければならない。動くスピードや利用者の様子をうかがいながら素早く動かせるようになりたいです。

利用者を体験してみて、ブランコのように楽しかったです。しかし、足腰などの身体が万全ではない高齢者にとっては、不安定であり恐怖も感じると思いました。このように体験することで、利用者さまの気持ちを知り**寄り添える支援**ができると思いました。